



ひらかわ

市議会だより

第11号

平成20年9月15日

発行

6月定例会



一般会計に補正予算7千853万9千円を追加。平川市税
条例の一部を改正する条例【ふるさと納税】などを可決

目次

- ◆第2回（6月）定例会（概要）……………2
（審議した議案）……………3～5
- ◆第3回臨時会……………6
- ◆一般質問（11議員）……………7～13
- ◆所管事務調査報告（総務企画常任委員会）……………14
- ◆視察研修報告……………15～17
- ◆議会の動き・編集室から……………18

世界一の扇ねぶた出陣：8月2日、3日の2日間にわたり「ひらかわねぶた合同運行」が行われました。不順な天候の中、最後まで勇壮に練り歩く世界一のねぶたは、多くの観客を魅了しました。



(原画 工藤哲彦)

発行：青森県平川市議会
 編集：平川市議会広報特別委員会
 〒036-0104 青森県平川市柏木町藤山25番地6
 TEL (0172)44-1111 FAX (0172)44-6988
 メールアドレス：gikai@city.hirakawa.lg.jp

平成20年第2回議会定例会は6月12日から、20日までの9日間開催されました。

初日の12日には、外川市長のあいさつと総括説明のあと、議事に入り、人事案件2件、「平川市税条例の一部を改正する条例（ふるさと納税）案」など条例改正案6件、その他5件、各会計補正予算案3件、専決処分報告6件のあわせて22件が提案され、議案ごとに提案理由の説明が行われました。

本定例会では、条例改正案6件、一般会計を含む3件の補正予算案とその他5件の議案については、付託された常任委員会において、それぞれ慎重な審査の結果、いずれも原案どおり可決となりました。また、専決処分された4件の平成19年度補正予算と2件の条例改正は、原案どおり承認されました。



第2回（6月）定例会

平川市税条例の一部を改正する条例案（ふるさと納税）等 22議案を可決



初日、会期を6月20日までの9日間と定め、会議録署名議員の指名、諸報告が行われました。告示されていた青森県後期高齢者医療広域連合議会議員選挙が行われ、投票総数22、そのうち有効投票21で三沢市議会議員馬場騎一氏15票、八戸市議会議員松田勝氏6票、無効投票1票という結果となり、青森県後期高齢者医療広域連合に報告されました。

外川市長のあいさつと議案の総括説明のあと、議事に入り、提案理由の説明が行われました。

その後総務企画、建設経済、教育民生の各常任委員会にそれぞれ付託となり、1日目の日程を終了しました。

5日目には常任委員会を開会し、6日目からは2日間にわたり一般質問が行われ、11人の議員が質問し、理事者側の考えをたきました。

9日目の最終日には、平成20年度一般会計補正予算案、老人保健特別会計補正予算案及び後期高齢者医療特別会計補正予算案、条例改正案等の議

案は原案どおり可決されました。

請願2件のうち、1件が不採択、1件は継続審査となりました。

また、議員の派遣についての議案が提出され、6月24日から26日までの3日間にわたり、鹿児島県南九州市（平成19年12月1日旧知覧町、旧川辺町、旧頰娃町の3町が合併）に議員の派遣をすることに決定しました。

その他、閉会中の各委員会の所管事務調査と、議会運営に関する事項等について継続調査とした旨の申し出があり、申し出のとおり決定し、全日程を終了しました。

会期日程

- 6月12日(木)本会議
 - 6月13日(金)議案熟考
 - 6月14日(土)休会
 - 6月15日(日)休会
 - 6月16日(月)常任委員会
 - 6月17日(火)一般質問
 - 6月18日(水)一般質問
 - 6月19日(木)議事整理
 - 6月20日(金)本会議
- のため休会

人事案件

人権擁護委員に

山田 君子氏
小笠原 昭治氏
を任命

人権擁護委員候補者の推薦について、碓ヶ関鯨森の山田君子氏と広船福田の小笠原昭治氏を推薦するため。

人権擁護委員 山田君子氏の任期が、平成20年9月30日をもって満了するので、再任について意見を求め推薦するため。

人権擁護委員に欠員が生じているため、新任について意見を求め推薦するため。

住所 平川市碓ヶ関鯨森
60番地15

住所 平川市広船福田
148番地2

氏名

山田 君子

生年月日 昭和21年8月2日生

氏名

小笠原 昭治

生年月日 昭和24年6月27日



審議した議案

条例改正案

平川市を応援！ ぐるぐる納税はじまる

●平川市国民健康保険税条例の一部を改正する条例案

【全会一致 原案可決】
後期高齢者医療制度の創設及び地方税法の一部改正に伴い、条項を改めるため。

【委員会質疑】

問 「その他特別の事情のあるもの」を今回加える理由。

答 申請により75歳以上の被用者保険本人が後期高齢者医療制度に移行し、65歳以上75歳未満の被扶養者が国保に加入した場合、加入後2年間は「応

能割額」を課税せず「応益割合額」を半額とするため。

問 減免の対象者に個別に通知してはどうか。

答 個別に通知して啓蒙に努める。

●平川市乳幼児医療費給付条例の一部を改正する条例案

【全会一致 原案可決】

青森県乳幼児はつらつ育成事業実施要領の一部改正に伴い、4歳以上小学校就学前の幼児の通院に対し、医療費の給付対象とするため、並びに診療報酬の算定方法改定に伴う関係条項を改めるため。

●平川市ひとり親家庭等医療費給付条例の一部を改正する条例案

【賛成多数 原案可決】
※委員会全会一致可決

高齢者の医療の確保に関する法律の一部改正に伴い、これまでどおり給付対象者とするため、並びに診療報酬の算定方法の改定に伴う関係条項を改めるため。

●平川市重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例案

【起立多数 原案可決】
※委員会賛成者多数原案可決

診療報酬の算定方法の改定に伴う関係条項を改めるため。

【委員会質疑】

問 診療報酬の算定方法の改正内容について。

答 診療報酬全体では改定率は0・82%の引き下げ、うち医師の技術料にあたる本体部分0・38%引き上げとなった。

また、産科・小児科を初めとする病院勤務医の負担軽減。

●平川市税条例の一部を改正する条例案

【全会一致 原案可決】

地方税法の一部改正に伴い、個人住民税における寄付金税制の拡充を図るため。

【委員会質疑】

問 制度の広報手段は。

答 基本的には「広報ひらかわ」と、ホームページ

●平川市長期総合プランに基づき「ひと・地域・産業がきらめくまち」づくりの実現に向けた事業に取組むための資金とし

問 本市ではこの制度で得た収入について具体的に使用方法を決めているのか。

答 平川市長期総合プランに基づき「ひと・地域・産業がきらめくまち」づくりの実現に向けた事業に取組むための資金とし

て活用する。

問 地域によっては特産品を配布するよう形で動いているが本市での対応について。

答 10万円以上寄付した方には1万円相当の平川市特産品を送ることにしている。

●平川市農業委員会の選任による委員の団体推薦に関する条例の一部を改正する条例案
(全会一致 原案可決)
津軽みなみ農業協同組合、津軽尾上農業協同組合及び他4農協の合併により、平成20年7月1日から新たに「津軽みらい

その他

●市有財産の無償譲渡について
(全会一致 原案可決)
市有財産を小国町会に無償譲渡するため。

◇譲渡する市有財産
〔土地〕
・所在地 平川市小国川辺148番地5
・現況地目 宅地
・地積 87・83平方メートル

◇譲渡の相手方
小国町会

◇譲渡の条件
公衆浴場用地として使用する。

【委員会質疑】

問 無償譲渡することによる市へのメリットは。

答 特にない。もともと

農業協同組合」が設立されることにより、関係事項を改めるため。
【委員会質疑】

問 農業委員の人数はどうなるのか。

答 現在の津軽みなみ農協と尾上農協の2人が7月の農協合併後は津軽みらい農協から1人となる。



小国町会保養所(公衆浴場)

小国町会が取得した土地で、土地の維持管理も現在まで小国町会が行ってきた。当時の登記簿法では町会所有の登記ができなかったが、登記簿法改正もあり町会等の地縁団体でも登記ができるようになったものである。

●市有財産の無償譲渡について
(全会一致 原案可決)

旧施設野菜省エネルギー



旧施設野菜省エネルギーモデル団地の施設(ガラス温室)

モデル団地の施設(管理棟及びガラス温室)を津軽尾上農業協同組合(7月1日から津軽みらい農業協同組合になっていきます。)に無償譲渡するため。

◇譲渡する市有財産
〔建物〕
・所在地 平川市猿賀下野46番地4
・構造 鉄骨造(管理棟1棟)、鉄骨造(ガラス又温室5棟)
・地積 462・00平方メートル、4063・50平方メートル

◇譲渡の相手方
津軽尾上農業協同組合

◇譲渡の条件

施設野菜等の生産に使用すること。

【委員会質疑】

問 建物だけの無償譲渡だが、土地については。

答 土地については、昭和63年に津軽尾上農協へ譲渡している。

問 このような施設を農協等が取得した場合に、固定資産税の減免措置があるのか。

答 組合員の協同利益のための施設で農協の採算事業にならない施設であれば課税扱い。農協の収益事業になるような施設として使用するのであれば課税対象となる。

●市道路線の認定について
(全会一致 原案可決)

道路法第8条の規定により、新路線を認定し、市道網の管理適正化を図るため。

小和森地区の1784号線(起点小和森上平田234番地19、終点小和森上平田258番地13)93・1メートルを新たに市道に認定する。

【委員会質疑】

問 住宅街の行き止まりまで家があるが、そこまでの道路を認定するのか。

答 不動産業者が開発した新道で宅地分譲している場所である。

問 幅員のほかに市道認定の条件は。

答 袋状小路であるため、車を回転させるための広さが必要。そのほか開発許可の段階で上水道や環境面でも条件がある。

(全会一致 原案可決)
構成団体であるふるさと交流圏民センター事務組合が平成20年3月31日をもって解散したことにより、規約を変更するた

●青森県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体数の減少及び青森県市町村職員退職手当組合規約の変更について
(全会一致 原案可決)
構成団体であるふるさと交流圏民センター事務組合が平成20年3月31日をもって解散したこと及び青森県市町村職員退職手当組合の現議会議員の任期が平成20年11月30日までとなっており、西津軽郡町村会と北津軽郡町村会の合併により当該議員の選出区域及び定数を変更するため。



補正予算関係

一般会計予算総額

146億7千853万9千円に

一般会計

予算の総額に、歳入歳出それぞれ1億7853万9000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ146億7853万9000円とする。

今回の補正の主な内容は、緊急経営体質改善支援補助金1080万円、税源移譲経過措置住民税還付金3815万9000円、日本一健康な土づくり農業実践事業補助金616万8000円、消防庁から寄贈された高規格消防車用車両整備事業1531万1000円、奨学金貸付金として316万円などである。

(全会一致 原案可決)

【委員会質疑】

問 農林水産業費の補助金の内容について。

答 「おいしい果物産地振興事業補助金」平川

ラズベリー研究会への研修や販売検討会等に対する活動費の補助と桜桃のハウス、雨よけ施設に対して補助する。

「あおもり園芸産地育成総合整備事業補助金」野菜の薬剤防除機(ブームスプレヤー)を購入する認定農業者に補助する。

「花き産地生産強化実践事業補助金」津軽のみなみ農業協同組合(7月1日から津軽みらい農業協同組合になっています。)の園芸生産出荷協議会に対して花き開花日を早めるための展示圃に係る費用を補助する。

「青森オリジナル花きモデル産地育成事業補助金」津軽のみなみ農業協同組合に対してデルフィニュームの実証圃の設置費と先進地視察研修費を補助する。「攻めの集落営



農パワーアップ支援事業補助金」金屋水稲生産組合に対して試作の種苗費や機械の借上料に対して補助する。

「日本一健康な土づくり農業実践事業補助金」NKT農業支援利用組合に対して稲わら収集機1台、大坊農業資源利用組合に対して稲わら収集機1台、広船循環型農業研究会に対して剪定枝粉碎機1台のリース料を補助する。

問 消防費の増額について。

答 配備予定である救急車へ搭載する患者監視装置、AED(自動体外式除細動装置)、人工呼吸

器等の購入費である。

問 高校・大学等奨学金の増額に対する内容について。

答 当初見込みより申請者数が増となったため。

老人保健特別会計

予算の総額に、歳入歳出それぞれ500万円を追加し、総額34億8819万9000円とする。

(全会一致 原案可決)

後期高齢者医療特別会計

収益的収入の他会計負担金に693万3000円を追加し、資本的収入に新たに収支金として1億870万6000円を追加する。

(全会一致 原案可決)

専決処分報告

■平成19年度平川市一般会計補正予算(第9号)

■平成19年度平川市国民健康保険特別会計補正予算(第4号)

■平成19年度老人保健特別会計補正予算(第4号)

■平成19年度平川市国民健康保険診療施設事業平川診療所特別会計補正予算(第4号)

■平川市手数料条例の一部を改正する条例

■平川市税条例の一部を改正する条例

請願書

●ポンプ自動車の配備についての請願書
(継続審査)

●「後期高齢者医療制度」に関する請願書
(賛成少数 不採択)

陳情書

●要望書等
(配布)

●過剰な農薬取締法により、植物からなる、農業用有機資材を締め出す不法な行政指導の改善を求める意見書



第3回臨時会

第3回臨時会が7月28日に招集され、5月から6月にかけての霜・ひょう被害に対して農薬散布助成、災害資金に対する利子補給、販売対策などを含む一般会計補正予算案1件が上程され、慎重な審議の結果全会一致で原案のとおりに可決されました。

補正予算 農家へ支援対策予算計上

■平成20年度平川市一般会計補正予算案
(全会一致 原案可決)

予算の総額に、歳入歳出それぞれ7063万4000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ147億4917万3000円とする。

とする。

今回の補正の内容は、

農林水産業費に平成20年度農林漁業災害経営資金利子補給費として33万8000円、降霜・降ひょう害果実消費拡大並びに販売促進対策費500万、降霜・降ひょう害緊急防除対策事業補助金として6175万7000円、消防費に消防車両修繕費として178万5000円、教育費に小和森小学校教室改修工事175万4000円が主なる補正の内容である。



ひょうで落下した果実 (八幡崎)

【質疑】

問 霜害・ひょう害の補助内容について。

答 5割以上の被害に遭った園地に対して薬剤費として10アール当たり基準単価50000円の5回分(2万50000円)について2分の1(1万2500円)を補助する。3割から5割の被害の方に対してはその4分の1(6250円)を補助するという内容。

【質疑】

問 市税等の軽減について。(工藤竹雄議員)

答 市税等の軽減については、7月号の「広報ひらかわ」に折り込みチラシ、8月号では「市税等の徴収の猶予及び減免について」を掲載して周知し、申請をしてもらい、実際に申告するときには平成20年の農業所得の減収率が分かるのでそれに基づいて減免するか、減免できないか決まることになる。

【質疑】

問 農林漁業災害経営資金利子補給について。(成田敏昭議員)

答 基準金利が3・25%に対して県が0・8%、市が0・8%で合わせて1・6%で予算計上している(農家負担1・65%)。去年のひょう害を受けた方々の利子が1・25%だったため、そこまで引き下げないように現在調整中。

【質疑】

問 修繕料と工事請負費

答 4月20日金屋方面に出動した消防ポンプが現場においてポンプ機能に異常が発生し故障した修繕料。基本操作の誤認と誤作動が発生原因であるため7月6日、13日、27日の3日間かけて平賀消防団と尾上消防団の団員に対して操作訓練を実施した。今後も消防団に対して機器操作等の訓練、車両の維持管理にかかる点検等について指導徹底していく。

が146・3ヘクタール、50から187・1ヘクタール、70%以上が233・8ヘクタール合計で777・5ヘクタール(出入作もあるため確定数値ではない)。

の概要と今後の対策について。(齊藤律子議員)

議会を傍聴してみませんか

定例会は3月、6月、9月、12月に行われます

詳しくは議会事務局まで 電話 (0172) 44-1111 (内線 1511)



第2回（6月）定例会 一般質問傍聴席

一般質問で市政をただす

●6月定例会では、17日（火）と18日（水）の2日間にわたり、11人の議員により一般質問が行われました。
●ここでは質問及び答弁の内容を要約して掲載しております。

1. 古川 敏夫 議員

1. 福祉行政について
2. 地域活性化事業について
3. 平川市の公共工事について

2. 大川 登 議員

1. 循環型社会の構築について
2. 平賀西中学校のプールについて

3. 佐々木 利正 議員

1. 教育環境整備に対する姿勢について
2. ごみ減量対策

4. 工藤 竹雄 議員

1. 高校教育改革について
2. 学校規模・配置について
3. 児童福祉について

5. 齋藤 律子 議員

1. 学校給食について
2. 福祉行政について
3. 後期高齢者医療制度について
4. 全国学力・学習状況調査について

6. 山口 昇 議員

1. 平川市の観光対策について

7. 小野 長道 議員

1. 果樹支援対策事業について
2. 遊休農地について
3. 農道について

8. 齋藤 剛 議員

1. 向陽地区（平賀地域）にあるタイヤの保存方法と今後について
2. 平川市の定住人口を増やし、少子化を防ぐには

9. 齋藤 政子 議員

1. 農業問題について
2. イオンタウン平賀の総括

10. 小野 敬子 議員

1. 環境問題からみた生ごみ処理対策について
2. 元気な高齢者づくりについて

11. 福士 恵美子 議員

1. 環境問題について
2. 職場環境について
3. 男女共同参画について

困っている低所得者に保険料の軽減を！

○後期高齢者医療制度○市民の医療費○基本健康診査受診状況○地域活性化事業○平川市の公共工事



古川 敏夫 議員

後期高齢者医療制度

問 ①見直しで、困っている低所得者に保険料の軽減を。②保険料長期間滞納者に対し、保険証をすぐ取り上げる措置をせざる調査委員会を設け審査すべき。

市長 国で低所得者に対する軽減率の増と、肩代わりや口座振替等について見直しを決定している。市長会でも、全面的に見直しをすべきと要望を提出している。

広域連合では調査・審議する委員会を立ち上げて対応すべきとの話がある。市独自では検討していない。

健康は自己管理で

問 ①市民一人当たりの医療費。②基本健康診査の受診者数。③「元

気あふれる健康づくりの推進に対する今後の進め方について。



市長 国の被保険者一人当たりの費用額（平成18年

度実績）は、一般対象分0歳から74歳まで20万4891円。退職分60歳から74歳まで35万6802円。老人医療費分75歳以上75万8071円。平成18年度受診者3640人、平成19年度受診者3828人と若干増加している。「健康ひらかわ21」を策定し、基本理念に基づいて7項目にわた

り推進している。今年からは生活習慣病を重点とした特定健診や保健指導に特に力を入れる。

平賀駅前通り電線地中埋設化構想で活性化へ

問 前回も質問しているが、長期総合計画に取り入れ実行委員会を組織し体制を整えたい。世界一のねぶたが威風堂々と歩けるような道路を。

市長 先に、地域の推進母体である実行委員会が組織されるべき。はつきりとした推進体制を早く固めていただきたい。

一人一人の意識改革をし、環境問題に真摯に取り組むべき！

○循環型社会の構築○平賀西中学校プール



大川 登 議員

循環型社会の構築と(*)サーマルリサイクルの矛盾

問 ①市長長期総合プランでは、今年「循環型社会推進ネットワーク」の構築を目指しているが、進捗状況は。

市民生活部長 事業系一般廃棄物の減量化に向けて複数の事業所、収集運搬業者、再資源化業者、市等が連携し効率的なり

サイクルシステムを構築するネットワークづくりについて先進事例の情報を得ながら、本市に適した方法を検討中。

問 多くの自治体がサーマルリサイクルでプラスチックごみを可燃ごみとして焼却している。二酸化炭素排出を抑制する意味からも基本は材料リサイクルと考えるが、弘前地区環境整備事務組合の議長である市長の考えは。

市長 循環型社会形成基本法が制定され、基本原則の順位が決められている。第1に発生抑制、第2に循環資源

の再使用、第3に循環資源の再利用、第4が環境資源の2次回収という位置づけであり、上に向かつて努力すべきと考えている。

平賀西中学校プールを解体しテニスコートを

問 漏水で使用されなくなつて12年が経過。早期解体し、テニスコートとして活用すべき。

教育委員会事務局 現在使用されていないプールが6校（小5校、中1校）あり、計画的に解体処分を進めている。総合的に判断してテニスコートが望ましいと学校側も要望しており最上位にランクしている。

問 解体年度は決められているのか。

教育委員会事務局 年度ごとの決め方はしていない。経過年数、跡地の利用計画、その財政的な裏づけにより、その都度に要求をしていく。

※サーマルリサイクル：ごみ（可燃ごみや資源として回収できない廃プラスチック）を焼却することによって発生する熱エネルギーを回収・利用すること。発電や冷暖房、温水などの熱源として利用される。（例：弘前市立温水プール石川）焼却炉や排ガス処理設備の性能の飛躍的向上等が図られ、ダイオキシン類等新たな課題への対策がされ可能となった。

学校環境、教育環境の充実を！

○教育環境整備に対する姿勢○ごみの減量対策



佐々木 利正 議員

平川市立小中学校に教材費として措置された交付税の用途

問 ①国の算定基準は人口10万人に対してだが市の算定は。②教材費とは何か。③他の目的に使用されている自治体があるとの報道であるが、当市の状況は。



市長 算定はされるが市町村に権限が委ねられており違つ。今年は図書費が少なくても、別な教育費に使っている。図書

企画財政部長 10万人を基本としているが、雪寒地方や学校の規模による補正等がされている。

教材用図書及び備品である。小学校費133万2000円。中学校費66万6000円予算化。全体(給食等も含む)では小学校費21%超過の3億9800万円、中学校費8%超過の2億0040万円を予算化。しかし、教材用図書及び備品だけみると、1割にも満たない場合がある。

費は近づくよう努力しなければならぬ。

再資源ごみ回収活動団体への補助金の見直し

問 ①6月から家庭ごみの有料化が完全に実施されている。有料化による歳入に対する使い道は。②ごみの減量化運動に積極的な資源ごみ回収活動をしている団体へ補助金の引き上げについて。

市長 歳入として手数料3240万5000円予算計上。歳出内訳は、指定ごみ袋取扱手数料375万9000円、「ごみ分別ガイドブック」作成53万円、家庭ごみ出し方指導奨励金287万6000円、ごみ啓発ツール作成22万1000円を計上しており、合計2185万1000円。弘前市(1kg当たり4円)並に引き上げるよう頑張るので御理解を。

生徒に確かな学力と豊かな人間性を身につける少人数学習編成を！

○高校教育改革○尾上総合高校○児童福祉(放課後児童クラブ)



工藤 竹雄 議員

高校教育改革第3次実施計画案

問 少数化を理由に教育予算大幅削減、適正配置には根拠もない学校統廃合と思うが、見解は。

市長 少子化社会で生徒数の減は理解しているが、なぜ尾上総合高校なのか理解できない。計画案の理念や再編の具体的な根

拠が明確でない。

尾上総合高校の存続を求め陳情すべき

問 議員皆様の強力な支援と、市民の皆様のご協力、ご審議をいただく必要もあるが、市長が自ら行動を示すべきと考えるが、志を問う。

市長 地元の関係者に理解を得られない改革案に反対であることから、議会も私も含めて反対である。19日に議会を挙げての陳情に同行する。

県教育委員会では県民の意見を求めるとし、地方教育委員会の意見や要望などの求めはなかった。

放課後児童クラブは改善されたのか

問 前回の質問で、教育委員会が主導で実施するという答弁だったが、①10クラブ中、3年生まで対象としているクラブ数は。②どのような改善策を講じたのか。

市民生活部長 2クラブ(かしわっこクラブ、関っこクラブ)を除き対象としている。設置場所の増設、定数の増など希望者が利用できるよう改善。3年生まで全て対象としているが、低学年優先のため、3年生を登録できない場合もある。

計画案に対し市教育委員会の意見は
問 経緯、実情を申し述べるなど、存続の必要性を強調したのか。
教育長 4月9日県下教育長会議で説明があり、

尾上総合高校：青森県初の総合高校として平成11年4月開校。全日制課程総合学科・定時制課程昼間普通科・通信制の課程普通科の3つの課程があり、単位制。

尾上地域小中学校の米飯給食実施について早期実現を！

○学校給食○福祉行政○後期高齢者医療制度○全国学力・学習状況調査



齋藤 律子 議員

尾上学校給食センターの米飯を平賀給食センターで実施を

問 ①給食費が同じだが、尾上の米飯は業者委託のため割高となり、その分おかずの質を落としている。学校給食運営委員会での結論は。②食材料の高騰による影響は。

教育委員会事務局 6月2日に第1回運営委員会を開催し、委員に説



平賀学校給食センター炊飯室：連続炊飯システムで炊飯はガス方式で、米から釜の洗淨まで自動化されている。

明し問題点、金額的、スケジュール的に全てつめて下さいとの事であり、問題点の確認等に時間をいただき結論はその後となった。金額的には近隣から見るとやや高め。パン・麺などは小麦の高騰により想像以上の値上がりだが、月1〜2回に減らして米に主力をおく形で本年も、できれば来年も乗り切りたい。

問 ③3月議会で金額も答弁しているのに進展がなく、むしろ後退である。現場では実施された場合を想定しているのに、スケジュールはどうなっているのか。

教育委員会事務局 7月下旬に次回運営委員会を開催予定。若干の工事があある場合、授業中や給食期間は難しいことも想定し、作業工程を考慮している。

生活保護の級地区分

問 ①市制となっても旧町村の区分の理由。②級地を上げる働きかけを。

市長 国は地域の生活状態、生活水準、物価等全部調査し決定。級地を上げる努力をしたい。

本物の学力

問 全国学力・学習状況調査で本物の学力を得ることができているのか。競争をあおりたてる調査にならないために児童・保護者・教育現場の声を聞くべき。

教育長 児童、生徒の学力学習状況を把握し、教育の充実に資するよう指導の改善を図る目的で実施。個々の生徒や学校間の競争をあおりたてるものではなく、目的を明確にしなが、各校長の責任において調査が適正に実施されていることから、直接の声の聞き取りは予定していない。

日本一おいしいリンゴと「世界一の扇ねぶた」で観光ブランドを！

○観光対策○公共施設(尾上地域) 活性化対策



山口 昇 議員

リンゴとねぶたを組み合わせたイベントを

問 ねぶたの時期をずらして収穫時期に合わせイベントを行い平川市に100万人の観光客を。

市長 発想は非常によいが難しいのではないかと思っている。実現可能かどうか、長期総合プランの中にもあるので、經濟部を中心にプロジェクトチームを作って検討したい。

津軽地域の新幹線青森駅開業に係る観光対策

問 県・津軽地域でも対策に頭を悩ませているが。

市長 津軽広域観光圏の役員会時、新幹線対応に

津軽全体で対応すべきと発言し、幹事会で今年中に津軽でどう取り組むのか決定することをお願いしている。

また、黒石市、田舎館村、平川市の3者で「津軽南新幹線開業効果活用研究会(仮称)」を今年設立する。広域で対応するものと、平川市独自で対応するものには新幹線対策費150万円を計上しているの、検討し実現していく。

さるか荘、ふるさとセンターの活性化対策

問 この地区の活性化を図るために猿賀公園の周辺を整備してきた。入浴者は増加しているが、施設利用は30%の減。なんらかの対策を立てている



左：さるか荘、右：ふるさとセンター

問 活性化を図るための管理委託について。 経済部長 指定管理の計画は来年度予定している。

霜、ひょうで予想以上の被害。農家を元気づけるために早急に対策を！

○果樹支援対策（防霜ファン） ○遊休農地○農道整備（平田森く小和森）



小野 長道 議員

ら3戸へ、総事業費500万以下も補助対象をして対応するため、事業を導入してほしい。

農薬費用一部助成と災害資金無利息補給

問 ひょう被害は市内全域。被害にあっても薬剤はかけなくてはならない。

防風網、防霜ファン設置事業
問 今回の霜被害は、防霜ファンの効果がはっきり現れた。経営基盤の弱いリンゴ農家は負担が大きいので追加要望を国、県、市へ熱望する。

市長 県では、知事の特認で要件の緩和（1カ所当たり受益戸数を5戸か



防風網と防霜ファンを設置している樹園地

問 資金等は県、国と時間を要するが、農薬助成は市長の判断で即決できないのか。
市長 災害資金よりも生活資金に対する利子

補給を考えたい。農薬は県、国からの補助金を期待しているが、税金を含めた減免対策や収穫時の傷物リンゴの販売を農協と一緒に考え対応したい。

臨時会または、専決処分も考えている。

遊休農地に関するアンケートの結果

問 ①農業委員会で行った結果について、遊休農地の要因は。②解消にむけて市の取り組みは。

農業委員会事務局長 平成18年度実施、回答農家戸数1877戸（回収率44%）で、遊休農地ありと回答454戸（24%）。遊休農地の要因については労働力不足、生産性が低い、土地条件が悪い等、労働力不足については、高齢化、後継者不足等が考えられる。関係機関と連携し、農地パトロールで実態調査し区分分けし、状況に応じた計画の策定や指導を行う。

景観を損ない、災害の危険性のある古タイヤ置き場に対処を！

○野積みされた古タイヤ○定住人口増と少子化対策



齋藤 剛 議員

向陽地区にある野積みされた古タイヤの保存方法と今後

問 ①何年も前からごみ置き場の様に見えるが許可はあるのか。②その計画は。③「指定可燃物」、「火気厳禁」と表示されているが火災対策は。

市長 タイヤは産業廃棄物で県が指導・対応。弘前の農家と売買契約が成立し、今年の冬までに撤去される予定。



向陽地区にある古タイヤ

消防長 消防法により指定可燃物の合成樹脂に分類され、3トン以上の数量を貯蔵、取り扱う場合は平川市火災予防条例の規制を受け、廃タイヤを4カ所に分散し、3メートル以上の保有空地を保持、災害発生の防止について県と連携し引き続き指導する。

問 持主が突然消息不明になったりすると市の税金を投入し、撤去しなければならぬ。風景を守るためにも市は県と指導徹底を。

住宅団地で定住人口対策
問 ①定住促進のための住宅団地の計画は。②結婚する人が少なく一人目、二人目の子育てが大変。特徴ある子育て支援について。
市長 企画財政課で大体案を計画している。できるだけ一般財源を導入

建設部長 今年度、来年度で見直し、決定は22年度。道路沿線の土地利用について、農業政策と調整を図りながら調査、検討したい。
市長 弘前広域圏の都市計画区域であるため、弘前市の了解が必要。前向きな見直しに向けて調整したい。

平川市の基幹産業である農業振興が重要課題！

○農家の現状と実態○放任園・遊休農地○イオンタウン平賀



齋藤 政子 議員

農業問題

問 ①大・中・小規模農家の現状と実態②5年後、10年後の農業の展望は。

市長 全体で2972戸、経営規模2ヘクタール以上の農家戸数573戸(19%)、1ヘクタール以上2ヘクタール未満925戸(31%)、1ヘクタール未



本格的なオープンを迎えた「イオンタウン平賀」

満1474戸(50%)。小規模農家も大変だが、兼業農家が多い。中規模の専業農家が大変である。農業は当市の基幹産業。農業で生活していける農家を育成しなければならぬ。その努力は惜しまない。

放任園・遊休農地

問 ①面積と、全体の放置面積に対する割合②どのような処置・対策をしているか。

市長 遊休農地面積(2005年農林業センサス)は、水田57ヘクタール、畑35ヘクタール、リンゴ樹園地97ヘクタールで計189ヘクタール。放任園は1ヘクタール。市と農協が連携し、伐採・薬剤散布等管理をしているのが現状。

イオンタウン平賀

問 ①当初見込みとの相違②全体の従業者数と新

規採用者数、そのうち市民からの採用者数。③売上げ見込み額と税収。

市長 昨年11月時点の計画は店舗数24、売り場面積1万9871平方メートルから店舗数18、売り場面積1万7021平方メートルと減。最近の経済情勢は悪化している。イオンタウンでは店舗誘致に努力しており、期待はしているが、やむを得ないと考えている。

マックス・バリュ系列のシフト29名、ホームマックからのシフト30名、以上を除く新規採用者数は155名、うち市民95名(61.3%)。残念ながら計画を下回った。売上げについてははまだ把握できないが、固定資産税・住民税合わせて約291.8万円が見込まれる。

問 初めての大型店舗開発等に関して非常に振り回された感がある。次回に生かしてほしい。

環境負荷・財政的な負担も少ない生ごみ対策。テスト的に実施を！

○生ごみ処理対策○元気な高齢者づくり



小野 敬子 議員

生ごみ処理に(※)HDMシステム

問 可燃ごみの80%(重量比)を超えるといわれている生ごみ。環境問題を考えた新技術HDMシステムについて、テストケースとしてどこかの町内で取り組み広域にいかすことはできないか。

市長 本場に提案することが可能だとすればすばらしい。職員に勉強、先進地を視察研修させて取り入れる努力をしたい。

環境面・経費の問題でも最良であれば事業に着手する努力をしなければならぬ。当市は弘前地区環境整備事務組合と黒石地区清掃施設組合に加入しているが、直ちに広域はむずかしい。まずは町内会単位でモデル地域として設定し取り組んでみたい。

問 職員に研修をさせて、ぜひ進めてほしい。

(※)スローピングを高齢者の健康法として指導普及し元気な高齢者

問 平成16年6月議会で提案し、「高齢者の健康法として取り入れて指導・普及を図っていきいたい」と答弁しているが、②市民の健康づくりのために行政で積極的に進めていることは何か、そして

その効果は。市民生活部長 職員がスローピングの効果、継続性を検証して今後検討したい。介護予防の事業計画の中で去年から高齢者の予防教室の中で「てんとうむし体操」を取り入れていた。一般の方についてはスローピング教室、ウォーキングで市民の健康に寄与している。

問 生きていくのに健康は最低の条件。高齢者が元気になることは財政にも直結する。以前から提案しているのに勉強不足、消極的。早急に取り組むべき。

※スローピング：坂道や階段を前向きや後ろ向きに歩くことで普段使われない筋肉を鍛え、能力が高め、転倒防止の運動としても効果があると言われている。



先進地を視察しながら、(※)ごみパートナーシップに取り組みを！

○環境問題（事業系古紙・ごみパートナーシップ） ○職場環境 ○男女共同参画



福士 恵美子 議員

事業系ごみ等の出し方

問 ①明らかに事業活動に伴って排出された古紙・ごみが出されている。市で事業系ごみに対する対策は。

モラルの徹底を実施。

ごみパートナーシップ

問 道路、河川、公園等へのポイ捨てが後を絶たない。ごみパートナーシップに取り組んでほしい。

市民生活部長 現在清掃活動を行っている団体やボランティアの支援活動を続けながら、久留米市等の先進地事例を参考に事業展開したい。

平川市職員安全衛生委員会

問 委員会が開催されたが、その内容は。

市長 職員の安全及び健康を確保し、快適な職場



※久留米市で取り組んでいるクリーンパートナー[くるめクリーンパートナー]:公共施設の利用者や企業等の活動希望者には、道路・公園・河川などの公共施設の中から活動範囲を決めて登録し、定期的に清掃等の美化活動を行う。市は掃除用具等の貸し出し、ごみ袋支給、ボランティア保険加入等の支援を行う。

要望書・陳情書提出

5月下旬の霜と6月13日(金)

夕方に降ったひょうは、市内全域の園地に多大な被害を与えた。よって16日(月)に、八幡崎地区、広船地区、古懸地区の現地を視察し被害状況を確認したうえ、6月19日(木)に議員21名と市長、副市長、教育長で県知事へ被災農家の深刻な状況を報告し、救済措置について陳情を行った。



青山副知事、鳴農農林部長らに陳情を行う

問 ①発足しているが、その後の活動は。②平川市女性団体連絡会のネットワークづくりを進めるべき。

男女共同参画推進委員会

市長 男女共同参画センターと連携し、意識啓発のための講演会を市内で開催する予定であり、皆様方に学習の機会を提供したい。平成19年1月に男女共同参画推進会議でも委員から意見がでている。生涯学習課と連携してネットワークづくりを進めたい。

同日「県立高等学校教育改革第3次実施計画(案)」において、尾上総合高校が平成23年全日制課程募集停止と平成25年定時制3部制に移行する内容について、県教育委員会を訪れた。田村充治教育長に対し、特色ある課程や充実した校舎から人気の高い高校であるため「尾上総合高校の全日制課程募集を継続」してもらいたい趣旨の要望書を提出した。



小笠原議長から田村教育長へ要望書を提出

所管事務調査

報告

総務企画常任委員会

● 調査期日

平成20年7月9日

● 出席委員

齋藤 正明、葛西 清

● 調査場所

碓ヶ関地域公共施設

● 調査目的

平川市合併後の公共施設等の管理・利用状況等を調査する。

● 調査内容

公共施設等の現地調査



齋藤委員長あいさつ（碓ヶ関公民館）

仁、小田桐信勝、成田 敏昭、今井 章也、山口 昇
(計6名)

● 欠席委員

小笠原勝則

● 随行者

碓ヶ関総合支所長 花岡敏則、総務課長 山田 幸喜、議会議務局議事係長 清藤哲彦、主事 黒滝 奈穂子
(計4名)

● 現地説明員

市民生活部福祉課長 古川鉄美、高齢障害支援係長 工藤伸吾、保健師 野呂真喜子、碓ヶ関総合支所市民生活課長 狩野 真、経済建設課長 工藤 久富、教育委員会総合運動施設長補佐 船水貞利、碓ヶ関支局長補佐 丸山 恵、碓ヶ関開発株式会社社長 佐々木秀美、同職

員 葛原秀美、同職員 佐々木 充
(計10名)

● 調査結果

碓ヶ関地域の公共施設等は40カ所以上あるため、主要施設7カ所の現地調査を行った。

碓ヶ関公民館は一部改修の予算が計上されている屋上のひびや雨漏り等を視察。老朽化が進んでいる。



ゆうえい館



碓ヶ関公民館屋上 工事現場



温泉会館多目的ホール

温泉会館は今年度指定管理制度に移行する方向で検討している。

平成18年度から指定管理制度を導入している農産物加工施設は平成20年度から管理料なしで会員の自力運営を行っている。

以前からつがる湯ノ沢高架橋は崩れかけているとの情報もあつたので現地を歩いて調査した。コンクリートが細かく剥がれ落ちている部分があることを確認した。

市では以前から国土交通省へ協議し協力を依頼しているが撤去に2、3日は要すること、迂回路がないこと、交通量が多いことなどから難航している。災害等による崩落も予測されるため、引き続き国へ要望を願うものである。



高齢者世話付住宅（やすらぎの家）多目的室



つがる湯ノ沢高架橋（昭和50年国有鉄道より無償譲渡）と下を走る国道7号線

施設名	完成/竣工年月	建設事業費 (単位：千円)	平成19年度利用状況	
			利用者数 (人)	備考
碓ヶ関公民館	昭和56年10月	532,000	15,836	
碓ヶ関温泉会館	平成15年6月	274,446	141,844	
高齢者世話付住宅	平成13年12月	191,665	単身用8室満室、二人用2室空室	
道の駅いかりがせき「津軽関の庄」	平成12年8月(道の駅認可)	1,964,622	(注)	
地域特産品生産施設	平成10年7月	221,565	125,305	
文化観光館	平成12年10月	526,705	112,102	
温泉交流館「御飯屋御殿」	平成17年7月	275,005	78,880	
碓ヶ関関所		28,329	-	
屋内プール(ゆうえい館)	平成10年12月	800,000	12,684	
つがる湯ノ沢高架橋	昭和40年7月	-	-	昭和50年3月日本国有鉄道から無償譲渡
農産物加工施設	昭和62年	建物等 2,150	9	会員数 平成9年七輪農村村会より購入

(注：駐車場他施設もあるため、下記数字を積算しても一致しません)

議員研修視察

報告

鹿児島県 南九州市へ

【期間】
平成20年
6月24日(火)
～26日(木)



研修参加者集合写真

● 調査目的

南九州市と平川市が友好親善交流盟約を締結、交流する方向で進めていることから環境・産業などを視察研修し、今後の人・文化・農産物などの交流の実施に際し、議員として視野を広げ、今後の議員活動に反映させることを目的とする。

● 参加議員

大川 登、小野 敬子、佐々木利正、工藤 竹雄、山口 昇、對馬 實、齋藤 正明、葛西 清仁、今井 章也、齋藤 政子、齋藤 剛、齋藤 律子、木村 兼由、小笠原勝則、田中 友彦、古川 昭二、佐藤 雄、福土恵美子、小田桐信勝 (計19名)

● 随行者

議会事務局長 木村雅彦、議事係長 清藤哲彦 (計2名)

● 研修視察内容・結果

1. 南九州市

(1) 文化・産業等

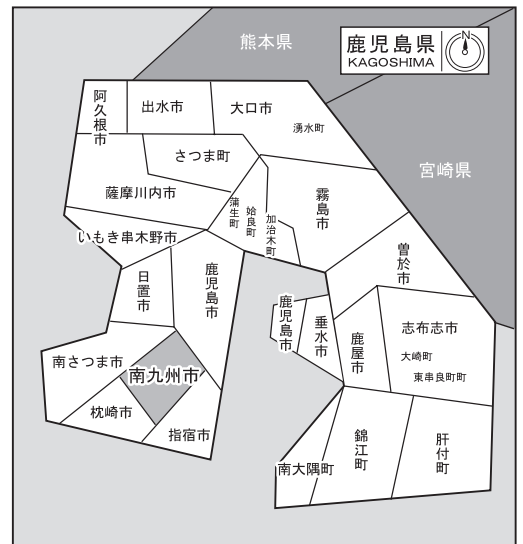
市の概要

平成19年12月1日川辺町(かわなべちよう)・知覧町(ちらんちよう)・穎娃町(えいちよう)が合併し、南九州市が誕生。市の位置は、南薩地域を構成する全ての市と隣接している。市内には武家屋敷群、特攻平和記念館、清水磨崖仏群(きよみずまがいぶつぐん)などの貴重な歴史資源があり、長い歴史の中で保存されている。また、国や県の指定を受けた伝統芸能行事も今も大切に継承されている。

(2) 人的交流

今までは旧平賀町と旧知覧町との交流であったが、今後は平川市と南九州市との交流になるため、旧町村地域では相手を知らない議員もいることから、「今後、協力して教育文化をはじめ、産業振興等の交流を図り、相互理解を深め、繁栄と伸展をもたらすための一層の努力をする」ことを目的に、両市の親交を深めてきた。

交流会では、相手方全員ねぶたが描かれたポロシャツを着ての出迎えにいかねぶた祭りに力を入れているかが伝わった。



南九州市位置図



ねぶたのポロシャツ



南九州市議会 西良仁議長



塗木地区のお茶畑

知覧茶

知覧茶の起源は、平家の落人が北部山間地の手裏に茶栽培を始めたという古い言い伝えがある。

北部地域では、山間冷涼で上級茶生産地帯。中南部地域は、温暖で土地基盤整備が確立し、大型機械化体系による低コスト良質茶生産地帯として安定生産に努めている。生産量は全国2位。

茶畑には施肥防除管理システムを導入し環境にやさしいクリーンな茶づくりに努め、お茶農家全員、茶園管理日誌を記帳、必要に応じて生産履歴を開示し安心・安全な茶づくりに専念している。



製茶工場内視察



清水磨崖仏群

清水磨崖仏群

旧川辺町にある高さ20メートル、長さ約400メートルの屏風のように切り立った岩壁に、五輪塔、梵字、仏像など200基が彫刻されており、そのあたり一帯は岩屋公園と称している。

彫刻された時期は平安・鎌倉・室町・明治だとされているが、彫った人など詳しいことは不明。一般観光地としては知名度が低いですが、今後のPRが期待される。

JA南さつま

鹿児島県の南西部に位置し、加世田市・笠沙町・大浦町・坊津町・枕崎市・知覧町・川辺町の南薩地域2市5町を区域として平成10年3月1日に合併し、県下でも大型のJAとなった。現在は、南さつま市（加世田市・笠沙町・大浦町・坊津町）・枕崎市・南九州市（知覧町・川辺町）の南薩地域3市となっている。

塗木地区製茶工場
塗木地区は旧知覧町中央部に位置し、畑地の基盤整備やかんがい用水事業をいち早く実施し、お茶を中心とした畑作作業が行われている。地区内では約170haの茶畑を管理するために、乗用型の大型機械を導入し大型の荒茶加工施設の建設が行われ、その結果労働力の軽減や農家所得の向上が図られている。

クリーンな茶づくりのもと他に先駆けて有機農業を手がけ、消費者に「おいしい」と言ってもらえる安心・安全なお茶づくりを目指している。

平成17年度経営構造対策事業費3億5574万円（うち国庫補助1億6940万円）



JA南さつまにて研修（唐竹出身の内山君が就職して活躍しています。右から2番目）

高齢化、少子化が進んでいる地域であり、食農教育を通じて農業への理解を深めるため「JA南さつま食育教育プラン」を立ち上げ「JA食育教育推進会議」を設置し、行政、消費者団体、学校等との連携・調整等を実施している。特に子供たちや家庭（子育て世代）を重点的に、平成20年度から3カ年計画で取り組んでいる。

JA南さつま管内状況		備	考
総面積	53,347 ha		
総人口	91,401 人		
平均気温	18.8		
平均日照時間	164.1 h / 月		
平均降水量	222.3 mm / 月		

農畜産販売高 216億8,100万円

新規就農の取組（新規参入・Uターン・Iターン・後継者）

・農業人材育成事業「ファームサラリー制度」
農協が合併し1つになったが、各市町村で人材育成の条件が違っていると不平等が生じるため、「JA南さつま農業人材育成事業実施要領」を平成15年に制定し、農業経営を目指す新規就農者に対し、将来を担う人材の育成と確保を目的に実施している。

高齢者農業支援「百姓倶楽部」の取組

年金友の会等のJA事業利用組合や会社等の定年後をJAの営農指導により「生きがい農業」という形で健康づくりも兼ねた「生涯現役」の場を提供する。

日頃の野菜づくりが「生きがい」に変わる。そんな野菜づくりを応援する会である。

作ったものを毎朝JAの店舗へ持ち込み値段をつけ陳列することで、消費者とふれあうこともできる。

会員の手取りは80%。（昨年実績2億7,000万円 直売所3カ所他）

主要農作物の状況	栽培面積 (ha)	生産量 (t)	備	考
お茶	2,249.0	6,297		
かぼちゃ	85.5	1,795		
知覧紅（甘藷）	144.0	2,883		
にんじん	57.6	2,439		
らっきょ	55.6	8,837		
きんかん	53.0	548		
たんかん	54.0	571		
水稻（転作含）	2,100.0	1,200	取扱量	
	早期水稻7月	1,000		
	普通水稻10月	200		

畜産の状況	飼育頭数	生産計画頭数	備	考
牛肉（頭）	15,000	9,000		
豚肉（頭）	145,000	145,000		
鶏卵（羽）	2,441,000	38,820		

2日目、特攻平和記念館にて特攻隊の話を聞く。悲しく悲惨な出来事である。当時は人間の尊厳というものが全くない。悔しくて腹がたつてしかたなかった。こんななげな戦争は二度と起こさないし、起こさせないという決意の意味から来てよかったと思う。



特攻平和記念館

茶畑・製茶工場・JA南さつまの研修において、高齢化している農業者にとって、りんごづくりとは、肉体的負担がかなり違つと感じた。工場は大規模だが、機械化されていて2〜3人のスタッフで間に合う。りんごセンターでりんごを詰める多くのスタッフの人件費を考えると、りんごは安すぎると思う。

議員研修視察を終えて

※内容は、抜粋・要約して掲載しています。

旧知覧町において、ねぶた祭りに数万人の観光客が訪れるとのこと。あちらにとっては、いい文化交流かもしれないが、こちらへのメリットはどこにあるのだろうか疑問。JA南さつまでの新規就農、人材育成への取り組み方は参考にしたい。JAが積極的に食農教育に取り組んでいる。こちらでは、現状をいかに子供たちに伝えていくのか課題である。

農業者の高齢化と後継者不足という状況の中で茶製造工場にお茶畑を貸し、工場側は生産から製造過程まで一貫して行い、茶畑の更新も計画的に行う。農家は工場から賃料をもらうが一反部の手取り額は15万円。我々のお米の生産額に比べると比較にならないほど高い賃料となる。知覧のお茶を飲みながら、いろいろ思いにふけっている。

屏風のように切り立った岩壁に五輪塔や梵字、仏像などの200基が彫刻されている清水磨崖仏群のような史跡が当市にあれば一大観光地になるのではと思った。高齢者農業支援「百姓倶楽部」とは年金友の会や会社定年後の生きがいという形で健康づくりも兼ねた生涯現役の場を提供している。北と南、氣候風土は違えども、故郷にかける思いはみな同じ。

旧知覧町と交流してきた旧平賀町のねぶたが南国の地で根付き、今や南九州を代表する観光資源となつていることに驚いた。しかし、青森県の平賀町との交流で始まつたことはあまり知られていない。知覧のねぶたは交流事業の成果として評価したい。今後は平川市が南九州市から得るものを模索していきたい。

特に興味をもつたのは、地産地消の考え方から農協独自のマーケティングを持たない農協として、高齢者、趣味的な農協や役場OB職員、経営委員者等で百姓倶楽部を設立し、年金を貰いながら副収入として農産物の直売をし、支援している点である。地産地消の言葉が広まるにつれ売上げアップにつながっている。

JA南さつままでの食農教育への取り組みがすごい。安全・安心な農産物を提供するだけでなく、農家の思いやりやこだわりを消費者に伝えると共に、JAの各部、支所における担当者を明確にし、着実に事業を行っている(生ごみ利用、稲刈、牛乳の旅など)。新規就農の取り組みにはただ感心しました。

「県下で一番のJA」を合言葉にナンバーワン運動に取り組み、組合員の所得を高め、住みやすい地域を作るための施策や土壌が健康であれば、生産者も健康であり「安全・安心」な食の提供ができる農協であるために明るく楽しい職場づくりを目指しながら、農協は地域発展の一翼を担っていると思いました。

南九州市の市長及び議員の方々の懇談では、何よりも温かい歓迎にただ心温まる思いでした。

製茶工場を見学し、市役所の担当の方のお話だと、今年のお茶は安値で140億位の年収が20億位減になるだろうと言われ、その大きな原因は生産過剰だと言われ、そのまた原因が国の機械化への補助金が増えて生産が伸びたという事で、何か考えさせられることがあります。

